



feature interview

DJ KEN-BO

今月よりスタートをするHARLEM金曜日の新しいレギュラーイベント【The Finest】(ザ・ファイネスト)にてレジデントDJを務めるDJ KEN-BO。プロデューサーワークやDJ PLAYに於いてもその活躍の幅を大きく広げ、FIRSTKLASへの正式加入も決定した彼の“いま”と“これから”について、【The Finest】に対する意気込みを踏まえて語ってもらった。

■8月1日から始まる金曜日の新レギュラーイベント“The Finest”について。帯でレギュラーイベントをやるにあたり心構えはありますか？

場所は固定じゃないけど毎週どこかでDJはやってるので、基本的に帯だから新たに何かをやらなきゃっていうのは無いですね。ただこのイベントは自分がこういう風になって欲しいというのを実現化してみようという感じなので、多少は気合いが入るけれど別に何か気負ってる訳でもないけど、いい感じに行きたいし、上手くいったらいいなって思ってるから、言葉で表さなくても自然に気合いは入っているかな。

■具体的にはどういったパーティーにしていきたいですか？

基本的にはHIP HOPなんだけど、そのHIP HOPが軸にあってそれをさらに広く見た中で、“こういうのも有りなんじゃないの”って思える部分を入れていきたいなって思う。例えば夏だったらラテンとかボサノバとかそういうのを3Fのサブフロアでやりたいし、メロウなクラシックもメインフロアではかけないけどサブフロアではかけられるだろうからそういう事やりたかね。

今は新譜がメインになっていると思うし、旧譜でもBiggieとかお約束以外は逆に言うとかからなかったりするけど、それだけじゃなくもっと色々かけなきゃいけない物もあるんじゃないのって思うし、そういうものもかけていきたい。人がちょっと忘れてる所だけど、いいね、アリだね、久々に聴いたよ、みたいな事をDJはやっていくべきだと思う。新譜はそつなく出来て当たり前で、そんなの誰でも出来るに等しい部分があると思うし、ただそれを綺麗に流れを作ってるかって言ったら話は別だけど、ただ単に流す事だったら誰でも出来るし、プラスそれだけ出来ればお客さんも盛り上がるので1時間はもつんじゃないの、みんなお酒飲んでるし。そういう感じの人が増えてどんどんHIP HOPが一般化するにつれて、いい意味でポップになっている部分もあると思うけど、逆にミーハーになっちゃってる部分もあるんじゃないかな。

昔クラブに行って新しい曲をチェックするのが面白かったりしたけど、今は自分の知っている曲がかからないと嫌な方向になって、それをもうちょっと戻したい。この声誰々じゃん、新曲っぽいね、いいねとか、古いもので昔から定番となっているものでちょっと忘れられているものだったり。独りよがりになってはいけないけど、流れを見ながらやれば出来るし、その部分をやって行きたいなって感じですよ。

どんどん若年層化していく中で、そういう人達がメインになって行くんだろうし、小学生や中学生で聴いている奴とか昔より絶対数が増えて変わったなって思うけど、俺もそろそろDJという仕事をやり始めて15年くらいになるのね。その中でリアルタイムで通って来たものもある程度残していきたいし、逆に言うけど俺がクラブに行きだした頃、80年代の頭の方の例えばCheryl LynnのGOT TO BE REALとかさ、曲的には知ってたけど、クラブでそれがかかるとみんながどうなるかっていうのは知らなかった訳じゃん。でもそれから何年経った高校生の時とかクラブであの曲がかかると、みんな当時のスネークダンスを始める訳ですよ。そういうのってさ、リアルタイムじゃないけど、DJがかけたらそうなるっていうのは語り継がれていく訳じゃん。自分がやり始めた頃はこういうのもありましたっていうのを出して新しいと思うし、だからHARLEM 6周年のMIX CDにNEW JACK SWINGを入れたのも例えばそういう事。自分は今31歳だけど、俺と同じ年とか俺より上のCLUB DADAとかNEW JACK SWINGブームとか、それよりちょっと前の六本木のDISCOとか行って、GOT TO BE REALでクネクネ踊ってたりしてた人達がまたクラブに行きたいと思った時に、あまりにも若すぎてちょっと引いちゃってるのもあって、そういう人達が「これだったら来るな」っていうものにした。基本的にメインフロアはアゲ重視で、サブフロアはどちらかというとLOUNGEな感じで、みんな好きにやって下さいっていう感じになると思います。

■これまでDADDY'S HOUSEではゲストDJとして参加されてましたが、DADDY'S HOUSEとの

違いは何ですか？

DADDY'S HOUSEはDJ MASTERKEYがメインのDJであって、それをいつもサポートしているのがYUKIJIRUSHIであって、俺は第一、第三金曜をサポートしている訳であって、DADDY'S HOUSEでの俺の立場っていうのは、MASTERKEYをカバーしつつDADDY'S HOUSEっていうパーティーがもっと盛り上がるようにするには、という所で自分はやってたけど、今回のThe Finestは自分がメインのDJになって、俺はこれがいいと思う事をメインフロアもサブフロアも考えていく訳で、それはもう決定的に違うと思う。あとはJr.が入るっていうのも違うしね。

■パートナーとしてJr.を指名した理由は？

Jr.はまだ若いんだけど、彼もDADA時代から色々見続けているから多少NEW JACK SWINGとかのノリを分かっているし、新譜も早いし、俺もJr.って人を次のステージにあげる為に、あの人の良さを出すのも俺の仕事だし、とりあえず自分がメインであるけど、自分のやりたい事を全面にやる訳でもなくて、逆に言うとなんか自分がやりたい事なのかも知れないけど、そこをカバーしてくれるのがJr.だったりするし、あの人が出来ない事も俺は多分出来ると思うのね、年の功みたいな。DJの若い子があんまりそこまで出てきてないっていうのを前にも言っていたけど、その中でJr.は出てきてくれたのも嬉しいっていうのもありますね。

■The Finestが始まって今までの意識の変化はありますか？

変わるって事はないと思うけど、自分はこういうのが好きですとかハマってますっていうのを出したいと思ってる。基本的に流行り物も好きだし、古いのも聴くし、アゲアゲも好きだし、チルアウトも好きだから、そこにこだわってやって行きたいなって。家ではHIP HOPでもアゲアゲのものはそんなに聴かなくて、どっかって言うのLOUNGE系のものを聴いたりしてるけど、でもやっぱりクラブにたまら50CENTとかが聴きたくなる訳で、例えばSOUTHとかがクラブでかかれればみんなアホになってワー！ってなっているのを見てるのは楽しいし、クラブはやっぱり楽しいよっていうのが好きなので、そういう部分は残しておきたい。いい意味でHIP HOPを軸にしたオールジャンル、そういう方向に行きたいですね。基本的にはある程度提示していく方向で。最初は手探りでやるかも知れないけど、それで全然いいかかって思ってた、だから最初は多少お客さんが減っちゃってもいいかなっていう気持ちでやらなく、新しく作る為に壊さなきゃいけない事があるから。やっぱりね、HIP HOPのパーティーやクラブに全体的に人が入るようになって色んな場所で行ってるけど、何処に行ってもかかっている曲は似たり寄ったりだったりする現状がある訳だし、それだとシーンが止まっちゃうからさ。昔はシーンがそこまでメジャーじゃなくて、ラジオつけてもそこまで聴ける音楽じゃなくて、でもクラブには好きな人達が来て、そこに行かないと聴けないみたいな感じがあった訳ですよ。今はラジオでも聴けるし、普通に一般的に知られている人も多くなってから今と昔じゃ状況が違うけど、そういう部分を残していきたいと思ってる。

それともうちょっと他のジャンルの人にも来てもらいたいんだよね。「音楽」としてクラブミュージックを聴いている人達に対してはすごいWELCOMEな感じだね。別にゴリゴリのHIP HOPだけでもないからさ。あとはちょっと若すぎるっていう感じは少し無くないっていうのがあるかな。サグな感じが少しいているパーティーにはしたくなくて、もうちょっと洗練された雰囲気にしたんだよね。なるべくドレスアップして来て欲しい。短パンとかがダメだって言ってる訳ではなくて、洒落てたらいい訳で、それはちょっとどうなんだろうみたいなのは、多少なりとも気を使ってくれると嬉しいかな。若い子が背伸びしても来なくなるような、“やっぱり雰囲気違うよね”って言われるパーティーにしたくない。

■The Finestのタイトルの由来は？

ヒデ(ZEEBRA)がレコーディングを今大詰めでやっているんだけど、そこで色々候補はあって、何かないかなって言ってたら「The Finestってどお？」って言われて、それもアリかなって気がして、凄いい直球な



んだけど今までなかった感じだし、自分たちがTokyo's Finestなんだっていう気持ちを持ってやっているので、ストレートだし少し大人っぽい雰囲気もしていいなって事になって決まっちゃいました。ちなみにZEEBRAのアルバムのタイトルも「Tokyo's Finest」になるくらいです(笑)

■大人っぽさにこだわった理由は？

とんとん若い子が入ってきて、卒業してって入学して来るみたいなシステムになっているような気がするのね。結局卒業しちゃった人達はどうするかっていう、クラブに来なくなったり他のジャンルに行っちゃったりするんだろうけど、それを防ぎたいっていうのがあって、そういう人達も普通に来れるような年齢の幅が広いものにしたいんだよね。クラブは若いから俺はちょっと引いちゃうなっていう人達にも来て欲しい。そういう選曲をしていきたいというのもあるし、でも音楽ってあんまり人に強要するものじゃないから、絶対来いとは言えないし言わないよって感じなんだけど。ただ最近は今までよりHIP HOPがポピュリティを得た事によってアゲ中心な方向になって来ているから、俺はそれだけじゃないんだって言うのさ。道をあけて下さいね。もしもトイレと並んでても優先的にお願いします(笑)。5時間プレイは俺がホントにやりたい事が出せるんじゃないかな。最近では地味に個人的にもいい事があるって、初めて50オーバー(パス)を釣ったりして、だいぶ良い感じなので本業もこの調子で行ければなと思ってます。

■8/29のThe Finestでは5時間のロングプレイをされますか？

5時間プレイっていうのは以前もやって始めてじゃないけど、HARLEMという箱での5時間は今まで自分がロングプレイをやってきた箱とは違うし、HARLEMの中でやったらどうなるかはやってみないとわからない。5時間プレイはトイレにもなかなか行けないからビールもあんまり飲めないし、俺がトイレにダッシュした時は道をあけて下さいね。もしもトイレと並んでても優先的にお願いします(笑)。5時間プレイは俺がホントにやりたい事が出せるんじゃないかな。最近では地味に個人的にもいい事があるって、初めて50オーバー(パス)を釣ったりして、だいぶ良い感じなので本業もこの調子で行ければなと思ってます。

それと例えばさ、外が雨降っていたら雨の曲をかけてもいいし、暑かったらそういう曲がかかってもいいし、寂しい秋だねっていうなら秋っぽい曲をかけてもいいし、だからもしも5時間プレイの日が雨だったら、「♪ I saw you, walking in the rain〜♪」(Oran "Juice" Jones)とか絶対かけると思う。みんな夏だったらやっぱりSUMMER TIME (Jazzy Jeff & Fresh Prince) かけるじゃない。それは当たり前の事だけど、それ以外にもあるし、例えばスローの時間にSUMMER TIMEの元ネタのSUMMER MADNESSやQuincy JonesのSUMMER IN THE CITYとかIsleyのSUMMER BREEZEとかもかかるべきだと思うんですよ。夏しかかけられない曲もあるし、その時にしかかけられない曲もあるから、その時の外の

状況も考えて入れていきたいと思う。

臨機応変にその時と場所と全体の感じを反映したい。ただ単にかけるとかじゃなくてメッセージとか、今こうだからかけてみたとかさ。LudaのMOVE BITCHとかはリリックには俺はあんまり好きじゃないけど、ホントにBITCHにウザい事されて「何だよ」って思ったらかけると思うし、簡単に言えばそういう事。でも俺がそのBITCHに向かって帰って言うてるのに、多分そいつは楽しそうに踊っていると思うけど(笑)。

■最近の制作活動は？

基本的には僕もFIRSTKLASに入ったので、FIRSTKLASは3人編成になって、ディレクションという部分で自分の意見を言ったりしてます。機械はそこまでいじらないんだけどね。だから文字には出ないんだけど何かを注入する役割にはなっていて、ネタはこういうのがいいんじゃないの、とか。

例えば今はZEEBRAのアルバムの制作期間中で、今回は基本的にフロアでかけられる物っていうのを基本的に考えて作ってます。今後も自分が現場でやっていくっていうのは変わらないし、その部分を注入していきたいし、色々ずつと聴いているから、これからこうなっていくだろうなっていう先の流れがわかる目は人よりもあると思うから、そういう部分を入れていきたい。アンテナを張るっていう事の本当の意味って、向こうがやっている事をいち早く入手する事ではなくて、向こうの流れを見て、これからきそうだっていう流れを読む事だと思うから、そういう部分でDJもしたいし、FIRSTKLASの方でも意見を言いたいというのが自分のスタンス。それはクラブDJをやっているからこそ出来る事だと思うし。

とりあえずFIRSTKLASっていうものが出来てからのヒデ(ZEEBRA)の1枚目っていう所をチェックして欲しいっていう感じかな。このアルバムは自分的にはヒデと二人でエグゼクティブプロデューサーという形をとってやっています。The Finestがいこうとしている部分と似ている所はあるな。うん。ネタとかも80'sを使っているものもあるし、でもモロ直球みたいなものもあるし、やっぱり多少は反映しているのかな。今までより本人のヒデが大人になった感じじゃないかな。いい感じで出来上がっていいです。

■最後に一言。

The Finestには今までクラブに来てなかった人にも来て欲しいな。毎週来いなんて言えないけど、ヒマな時とか、ちょっと飲んだ帰りにかに来て欲しいな。そういう人達も楽しめるようにしたい。多分スローな曲をかけたりとか、LOVEな雰囲気フロアが満ち溢れた時なんかは、それを増長させるような選曲を俺はすると思う。そしたらホントはエグいんだけど安心してイチャイチャして下さい。その代わりに猥褻行為をすと出禁になるので注意するように(笑)。